

Onagrad type にあたる。 m 細胞は横に分裂して d , f 細胞を作り, d 細胞から根の生長点組織と根冠が分化してくる。これは Onagrad type の *Lythrum* variation にあたる。この観察と今までの報告とを比較した。

□Jeremy D. Pickett-Heaps: **Green Algae Structure, Reproduction and Evolution in Selected Genera.** i-vii+606pp. Sinauer Associates, Inc., Publishers, Sunderland, Massachusetts, U.S.A. 1975. (邦貨にして 16,650円)。車軸藻を含めて緑藻の 6 つの目 ボルボクス目, クロロコックム目, ヒビミドロ目, サヤミドロ目, ホシミドロ目およびシャジクモ目から代表的なメンバーを選び, 生殖細胞と発生, 体細胞と細胞分裂, 生活環の各相の細胞構造などを, 光頭と電頭またあるときは走査電頭を用いて撮影した豊富な写真を軸に, 緑藻とはどのような生物群か, 含まれる分類群にはどのような特徴があるかなど

ある第 8 章において, 60 頁余に亘って系統論が展開される。論議は主に細胞分裂過程と運動性細胞の微細構造上の特性に基準をおいて進められる。その説くところはすべてが納得できるものとは言いがたいと思われるが, 独創的な著者の見解は注目されてよい。(この章を読むに当っては, 似た観点から緑藻の系統を論じた下記の文献を併せて読むと興味は倍加すると思われる。K. D. Stewart, and K. R. Mattox (1975) Comparative cytology, evolution and classification of the green algae with some consideration of the origin of other organisms with chlorophylls a and b. Bot. Rev. 41: 104-135)。

この本の一大特色は, 生殖細胞やその発育過程などを光頭, 電頭, さらに走査電頭によりとらえた, 800 以上におよぶ膨大な数の写真の, 視覚に訴えた効果的な配列にあるといつてもよい。紙芝居を見るように楽しく, しかもそれぞれがストーリーを物語るようで, いつしか緑藻の微細の世界に誘い込まれるといった感じである。終章の「系統と細胞構造」には, *Marchantia*, *Sphaerocarpos*, *Equisetum*, *Zamia* など, 有胚植物の精子形成過程の微細構造写真が添えられている。文献は豊富で, 面のものはほとんど収録されているといってよい。

(千原光雄)

□堀内克明訳: **アメリカ俗語辞典** Eugene E. Landy: The Underground Dictionary. 1975 研究社。本書は書名の通り米国俗語の和訳辞典であるが, 卷末に多少参考になるものが収録してある。その内に Harrison Act (1914), すなわち Laws relating to the Control of Drugs と, その後の 4 回にわたる修正条項の概略がのせてある。この法律は麻薬類の取締に関するものであるから, アヘンやその原料植物であるケシや, 近頃よく問題を起す大麻(アサ)や, それ等の栽培並に同法に違反した場合の罰則などが規定してあって, 我国の取締に似たものであるけれども, 他国のものを心得ておくのもあながち無用でもなさそうなので, 紙面を借用することにした。

(久内清孝)